

2026 年 09 月 08 日
名古屋大学全学技術センター

山崎高幸技師が製作した小型大気環境測定器が 国立科学博物館に展示されました

上野の国立科学博物館の企画展に名古屋大学全学技術センター計測・制御技術支援室の山崎高幸技師が製作した小型大気環境測定器が展示されました。この企画展は、国立科学博物館と総合地球環境学研究所（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構、京都市）が、「どうする、ニンゲン ― 研究の現場から地球の未来を問う」（2026 年 7 月 31 日～9 月 23 日）というテーマで共同企画したもので、展示された測定器は総合地球環境学研究所と共同研究を行っていた名古屋大学宇宙地球環境研究所の松見豊名誉教授との業務の中で、山崎さんが製作したものです。この小型大気環境測定器の開発、改良、運用について、山崎さんは学内の技術発表会でたびたび発表してきました。

展示では、この測定器によって、インドでの大気汚染が都市部や工場だけでなく、農村部の穀倉地帯で行われている「稲わら焼き」を原因として発生していることが明らかになったことが紹介されています。山崎さんがインドで測定器を取り付けている写真も展示されており、多くの方が興味深く見学していました。

山崎さんも、「自分が製作した装置が意義あるものとして国立科学博物館の特別展で展示され、大変うれしく思います。」と、話していました。技術職員の仕事が、こうした形で一般の人に紹介されるのは、とても意義深いことです。



写真 1) 国立科学博物館の企画展で、インドの穀倉地帯でおこなわれている「稲わら焼き」が大気環境に及ぼす影響を研究した結果について紹介する展示。人の生産活動と大気汚染の難しい関係にも触れている。



写真2) 山崎高幸技師が製作した小型大気環境測定器。大気中の PM2.5、CO、NO_x、O₃を測定することができる。インドの農村部に32箇所設置し、3年間にわたり大気環境を測定した。

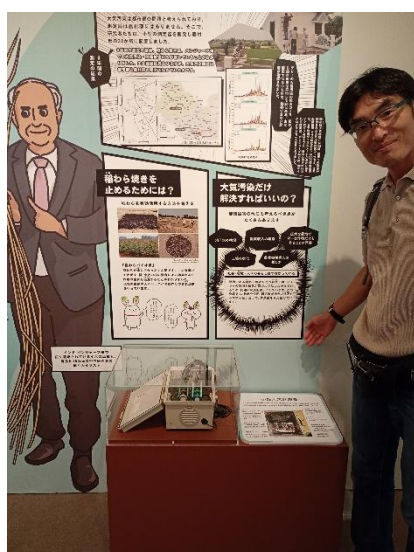


写真3) 山崎高幸技師、自身が製作した小型大気環境測定器の展示の前で。

(関連リンク)

- [国立科学博物館×総合地球環境学研究所 共同企画展](#)
「[どうする、ニンゲンー 研究の現場から地球の未来を問う](#)」
- [第3回 東海国立大学機構技術発表会（名古屋大学、2024年3月5日）、山崎高幸ほか、](#)
「[小型大気環境計測器の開発とインドでの運用](#)」
- [第2回 東海国立大学機構技術発表会（名古屋大学、2023年3月7日）、山崎高幸ほか、](#)
「[発展途上国での頻繁な停電に対応する小型大気環境計測器用の対策回路の製作](#)」
- [第12回 名古屋大学技術研修会（名古屋大学、2017年3月2日）、山崎高幸ほか、](#)
「[小型 PM2.5 計測器の製作](#)」